

20120227

2012年2月27日　日本テレビ 定例記者会見

《 全文 》

<発表>

大久保好男社長：視聴率は先週四冠王で、これは4週連続でした。また2月の月間視聴率も四冠王で、これは3ヶ月連続でした。帯番組、ゴールデンタイム、プライムタイムの番組がいずれも好調で、番組制作スタッフの創意と工夫が視聴者の皆さんに評価頂けていると受け止めており、担当者たちには感謝しています。

東日本大震災が起きた3月11日を前に、「NNN ドキュメント」で放送した震災に関するドキュメンタリー番組を集めた「3・11 大震災シリーズ」を、横浜にあります「放送ライブラリー」で上映します。併せて3月20日に被災3県のNNN局記者と日本テレビのディレクターによる公開セミナーを開きます。

また3月11日直前の1週間に、東日本大震災関連の番組を放送します。日本テレビは放送局として引き続き、被災地の復興支援等に積極的に関わらせて頂く方針です。

1. 最近の視聴率動向と編成戦略

記者：視聴率が好調である具体的な要因と、年度視聴率四冠王の獲得に向けた今後の編成戦略をお願いします。

小杉善信取締役：現在4週連続で四冠王ですが、ゴールデンタイム、プライムタイムはレギュラー番組が好調であるのが主な要因です。また先週は「世界ウイーク」として、「世界」が番組名に含まれる番組が連携したコラボレーション企画を展開し、これがレギュラー番組の底上げになったと分析しています。ゴールデンタイム、プライムタイムは引き続き、質の高いレギュラー番組をしっかり製作し、放送していく方針です。

3月に入りますと各社とも強力な特番がありますが、その状況も考慮しながら編成をしていきます。日本テレビは3月28日・29日に「2012MLB 日本開幕戦」、3月30日・31日と4月1日に巨人の開幕戦等も放送します。

全日では帯番組が好調で、これにより全日全体の視聴率が底上げされ、先週も8.8%と高い平均視聴率を獲得しています。月間視聴率も8.6%で、レギュラー番

組を主に編成した週としては高い視聴率ですので、引き続き帯番組をしっかりと放送していきます。番組ごとに月間視聴率を見ますと、朝の「ZIP!」は 8.6%、昼の「ヒルナンデス!」が 5.7%、夕方の「news every. 第 2 部」は 9.5% と、それぞれ平均最高視聴率を更新しました。こうした帯番組により全日帯の視聴率を上げ、さらにゴールデンタイム、プライムタイムでも上乗せを目指す方向です。

年度視聴率の四冠王に関しましては最後の最後まで分かりません。特にノンプライムタイムは先々週 0.1 ポイント上がりましたが、現在好調の全日で首位局との 0.1 ポイント差、ノンプライムタイムの 0.1 ポイント差を詰めていけるかが焦点ですので、年度の残り 5 週に全力を挙げていきます。

記者：帯番組の好調、特に「ヒルナンデス!」の視聴率向上をどう見ていますか。

小杉取締役：「ヒルナンデス!」は当初、情報番組を主に担当してきたスタッフを中心に製作していましたが、バラエティーの要素が多いためゴールデンタイムのバラエティ一番組からも演出陣を投入しました。また曜日ごとに企画など特徴も出てきまして、例えば「東京マラソン 2012」には曜日ごとのレギュラー陣が登場しています。さらには出演者とスタッフのチームワークが良くなっている事も要因だと思います。それぞれの企画やコーナーも育ってきていますが、番組全体としても総合力がついてきたと考えています。

記者：4 月改編の狙いについてお願いします。

小杉取締役：改編の目的は改編前の番組よりも視聴率を上げる事ですので、1 週間のタイムテーブルとして平均視聴率を上げるために弱点を克服します。

まずゴールデンタイムとプライムタイムでは、火曜日 21 時に「超再現！ミスティリー」、木曜日 19 時に「雨上がりのアメカン（仮）」、金曜日 19 時に「ガチガセ」を編成するほか、金曜日 20 時には「ネプ＆イモトの世界番付」を枠移動します。

また 23 時から 25 時に「プラチナゾーン」を新設します。これはソーシャルメディアを含めた新しいメディアとの連携や営業戦略も踏まえ、今の時代に即した内容を目指すものです。中でもこのゾーンの月曜日、火曜日、水曜日 23 時 58 分から 24 時 53 分を「プラチナイト」枠として編成します。深夜番組は 30 分枠が多いのですが、1 時間枠で製作し、ゴールデンタイムやプライムタイムに移行できるような足腰を作り、営業ニーズにも応えていきます。戦略的に視聴者ターゲットも絞り込み、この時間帯に合った番組を製作する方針です。

全体としては、全日では帯番組をさらに強化し、ゴールデンタイムやプライム

タイムは弱点を克服し、深夜帯はニーズに応えていく形です。

記者：新しい23時台の「プラチナイト」を何故1時間枠にするのでしょうか。

小杉取締役：これは試金石です。深夜番組の場合、主に強い企画を最初に置く事が多いのですが、ゴールデンタイムやプライムタイムでは考え方方が異なり、全体を考えて、強い企画を番組半ばに置く形が主です。深夜番組の形式にとらわれていますと、ゴールデンタイムやプライムタイムに移行できませんので、1時間番組として最後までご覧頂く構成や企画を出して、それで初めて合格点となる目標を番組制作者に与えたという事です。

2. 営業状況と放送外収入

記者：営業状況の年度の見通しをお願いします。

大久保社長：タイムセールス、スポットセールス共に第3四半期決算時点で発表した状況と変化はありません。最終的には微増収になると思います。

タイムセールスは昨日の「東京マラソン2012」、今後の「FUJI XEROX SUPER CUP 2012」、「2012MLB 日本開幕戦」、プロ野球の巨人戦等の単発セールスがあり、基本的には好調に進んでいます。

2月のスポットセールスは前年同月比100%には届かない状況です。月半ばの引き合いが少し想定を下回った事もあり、セールス全体が若干回復してきた中では、2月はやや不調でした。3月はかなり活況で前年同月をかなり超えるのではないかと期待しています。放送収入の通期見通しは微増収の状況と見ていています。

4月以降のセールスについては、昨年年間の視聴率三冠王を獲得し、こうした事を背景に4月の番組改編もスポンサー各社には高く評価して頂き、ネットタイムセールス、ローカルタイムセールスともに予想以上に好調な滑り出しで進んでいます。全体としては、日本経済の状況が先々不透明な部分もあり、政治状況も見通しがつかない要素もありますので、慎重に見ていきたいと考えています。

記者：放送外収入の状況をお願いします。

大久保社長：映画事業は「ALWAYS 三丁目の夕日'64」が公開後37日間で240万人のお客さまにご来場頂き、興行収入は30億円を超えるました。前作「ALWAYS 続・三丁目の夕日」の最終興収が45億円を超えたので、それに比べるとやや低い状況ですが、昨今のやや不調な映画状況全体を考慮すれば健闘していると思つ

ています。また「逆転裁判」は 16 日間で 30 万人を超える皆さまにご覧頂きました。

国際事業としては、台湾に合弁で設立した黒剣テレビ番組制作株式会社が「星の金貨」のリメイク版を制作中です。2月 15 日に北海道でクランクインして、北海道ロケがおよそ 1 ヶ月、その後台湾で撮影し 6 月には完成、7 月から台湾で放送するスケジュールで進んでいます。台湾で放送した後は中国、香港等で順次放送を目指していきます。黒剣テレビとしての大型作品第一弾としてぜひ成功させ、これを足掛かりにして次の作品に進んでいきたいと考えています。

記者：今回「星の金貨」が選ばれた理由を教えて下さい。

能勢康弘常務取締役：これは黒剣テレビ番組制作株式会社が決定したもので、日本テレビが過去に放送したドラマの中でも高視聴率を獲得し、かつ台湾や中国等、アジア圏で特に知名度と人気が高い作品であるためです。

記者：今後、日本テレビが製作に関わる映画で 3D の見通しを教えて下さい。

大久保社長：映画全体としては、3D 上映ができる映画館が増え、そして適切な作品等が増えていけば、興行収入の観点からも 3D 映画は増えていく流れではないかと思います。いずれ 3D 眼鏡が不要になる等、様々な事を技術の進歩で克服していくと思いますので、大きな流れでは 3D 画像が増えていく方向ではないかと個人的には思っています。

3. メディア戦略

記者：先日 mmbi の「NOTTV」の番組発表がありましたが、どのような形で参画するのでしょうか。

大久保社長：日本テレビは「NOTTV」の 24 時間ニュースチャンネルである「NOTTV NEWS」に 11 月から「日テレ NEWS24」を供給します。また「NOTTV プロ野球 2012」の木曜日に巨人戦 6 試合を供給する予定です。この 6 戰は地上波との重複はありません。巨人戦が「NOTTV」で放送される事により、若年層の視聴機会が増え、野球人気の拡大につながる事を期待しています。さらに「アイドル☆リーグ」という地上波と連携したバラエティ一番組を供給します。これは約 10 名のアイドルが出演し、番組内で人気投票を実施して、上位 5 名が日本テレビの番組に出演できる内容で、地上波とのメディアミックスの先行事例になると考えています。

今後は「NOTTV」のタイムテーブルに応じて日本テレビが協力を求められれば、それを検討していく形です。相互に意志の疎通を図りながら次の展開を考えていきたいと思います。

記者：地上波への影響はどうでしょうか。

大久保社長：地上波とは画面のハードウェアも大きさも違いますので、視聴率に影響を及ぼすとは考えていません。互いに連携しながらそれぞれの良い面を引き出していくべきと考えています。

記者：新規 BS 局としてディズニーの「DLife」が無料放送として始まりますが、どのように捉えていますか。

大久保社長：どのようなコンテンツが用意され、それが視聴者の皆さんにどう受け入れられるのか、経過を見ないと何とも言えないと思います。BS 各社にとつては新たなライバルの出現ですし、BS 日テレに関わっている日本テレビとしても動向には関心を持っています。

4. その他

記者：3月11日の東日本大震災関連の番組について全体の編成方針を教えて下さい。また番組を放送するにあたり、幼い子どもたちに悪い影響を与えないように津波や地震の映像について配慮や対策があれば教えて下さい。

大久保社長：東日本大震災発生から1年、日本テレビが番組を製作する基本的な姿勢は変わっていません。報道機関として、被災者の皆さん、それから国民の皆さんに向けて、大震災の教訓を引き出し、また復興していく状況をお伝えする事で、皆さんに元気になって頂く事を目指す、こうした姿勢で番組を製作していくという事です。

また子どもたちへの心理的な影響は、震災の発生直後から指摘されている問題ですので、今回に限らず報道機関として心理的影響に十分配慮し、適切な判断をして放送を続けています。こうした映像使用については一律に決めるものではなく、子どもたちへの影響も十分考慮して、使用が必要な場合は適切に判断して放送するよう徹底しています。

記者：大震災関連番組の意図や編成についてお願ひします。

小杉取締役：3月11日は日本テレビ報道局とNNN各局による、報道特番「復興テレビ みんなのチカラ 3.11」を12時45分から18時55分まで、途中に「笑点」を挟んで、全国ネットで生放送します。これは「真相報道 バンキシャ!」「NEWS ZERO」「news every.」を束ねるもので、各番組のメインキャスターが担当します。この番組を主軸に、今週土曜日から来週まで展開していきます。

また3月4日、16時30分からのドキュメンタリーパン組「リアル×ワールド」で「ディレクター被災地へ帰る 母と僕の震災365日」を放送します。これはディレクター自らが被災した側面から撮影、製作した番組です。

3月6日、21時からは2時間特番として、石巻日日新聞のドキュメンタリードラマ「6枚の壁新聞」を中村雅俊さんの主演で放送します。

さらに3月7日、19時から「音楽のちから 2012」を3時間に渡ってお届けします。嵐のメンバー5人が初めて全員揃って被災地を訪れ、仮設住宅にお住まいの方を訪問させて頂いた模様なども交えて放送します。

3月11日、19時からは「ザ!鉄腕!DASH!! 3.11 特別編」を編成します。福島にある「DASH村」に関わる皆さんの1年間に渡るドキュメンタリーを含め、福島から生中継します。

また「24時間テレビ」では、3月11日を中心に2週間に渡り、「復興 東日本大震災募金」として震災復興に目的を特化して募金を行ないます。

記者：津波警報の際の避難呼び掛けについて議論がありますが、大震災以降に見直された点はありますか。

大久保社長：民放連の広瀬会長も報道機関、特にテレビ局が津波について本当に役割を果たせたか、考えるところがあるのではないかとおっしゃっています。私どもも同じように考えています。報道機関として、テレビ局として大災害の報道のあり方について、教訓を活かして改めるべきところは改めていこうと社内で検討しています。「防災」の観点からテレビ局が果たすべき役割があると思いますので、引き続き研究していきたいと考えています。

(了)